

小児がん地域計画書

東北大学病院

実施期間:平成 25 年 9 月 1 日より 4 年間

平成 25 年 8 月 31 日

東北地区小児がん医療提供体制協議会の設置

東北地域小児がん医療提供体制協議会(以下:協議会)を設置する。

- ・ 個々の症例に対して、小児がん診療病院間および小児がん拠点病院との連携を強化する。
- ・ 具体的には、随時連絡を行うとともに、東北地域小児がん医療提供体制協議会を最低年 1 回開催し、東北地区における小児がん診療のあり方の検討と情報共有を行う。
- ・ 毎年 3 月初旬に東北小児がん研究会が開催され、東北ブロック全体における各科医師が参加するため、同日に協議会開催を予定している。
- ・ 今年度は、2013 年 8 月に協議会設立準備会を設立した。

(ア) 地域連携

●具体的な疾患及び病態に関して、地域ブロック内の拠点病院及び小児がん診療病院との役割分担

- ・東北地区は現在、各県における大学病院小児科、主要関連病院で小児がん診療が行われている。

初発症例などの標準的治療が必要な症例は、患者家族の利便性を考慮し、今後も図 2 に示す各小児がん診療病院での診療を継続する。

- ・以下に小児がん拠点病院に集約すべき疾患・病態を示す。患者家族の同意が得られることを前提として、小児がん拠点病院への集約化を図る予定である。

小児がん拠点病院に集約すべき対象疾患・病態

- 1) 再発あるいは難治性疾患
- 2) 高度の手術手技を要する脳腫瘍症例
- 3) 原発性免疫不全症を基礎疾患とした小児がん症例

・宮城県内における小児がん診療体制を示す(図1)。

東北大学病院は、宮城県立こども病院と緊密な連携体制にあり、今後も継続する予定である。

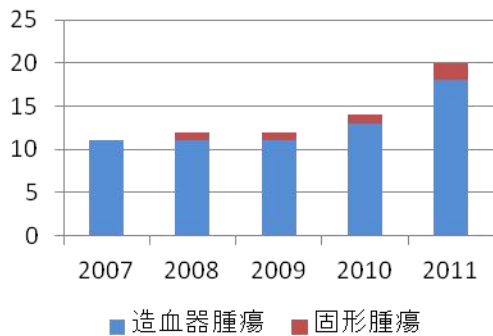
宮城県の小児がん患者数
日本全国の約2.7% (60/2200)

宮城県立こども病院

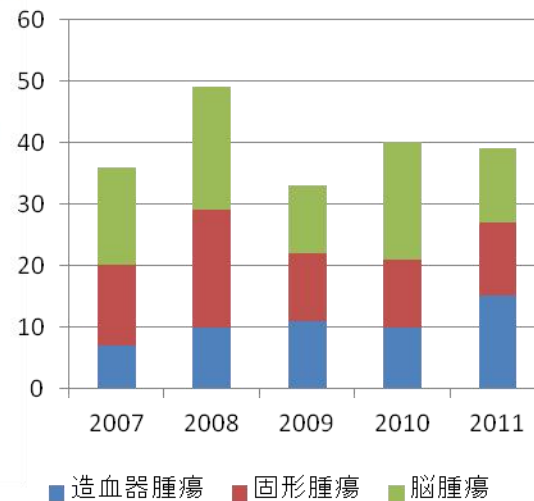
- ・血液腫瘍科
- ・外科/脳神経外科
- etc

東北大学病院

- ・小児科
- ・小児外科
- ・脳神経外科
- ・眼科 etc



新規患者数(2007-2011)



新規患者数(2007-2011)

図1 宮城県における小児がん診療体制

・東北ブロックにおける小児がん診療病院

図2に具体的な小児がん診療病院を示す。

各小児がん診療病院にて同県内の小中規模病院からの標準的治療を要する症例が集約される。

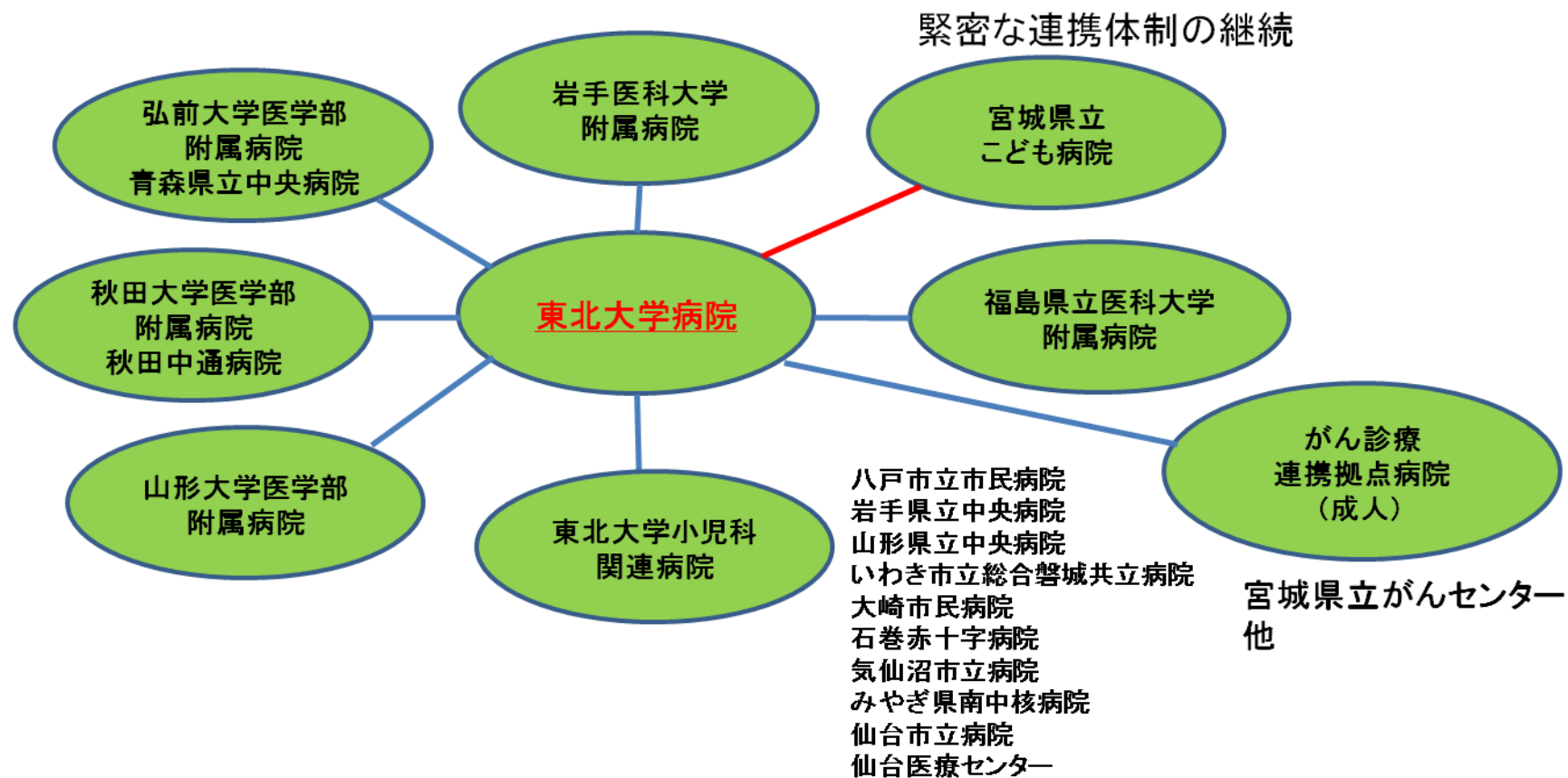


図2 東北ブロックにおける小児がん診療病院

・カバーする地域

右図に図示するように、東北ブロック6県全県とする(図 3)。

過去3年以内の
小児がん患者紹介施設

→ 宮城県内より

→ 東北6県より

■ 小児がん診療病院

● 東北大学小児科関連病院
(県外)

* がん診療連携拠点病院
(成人)

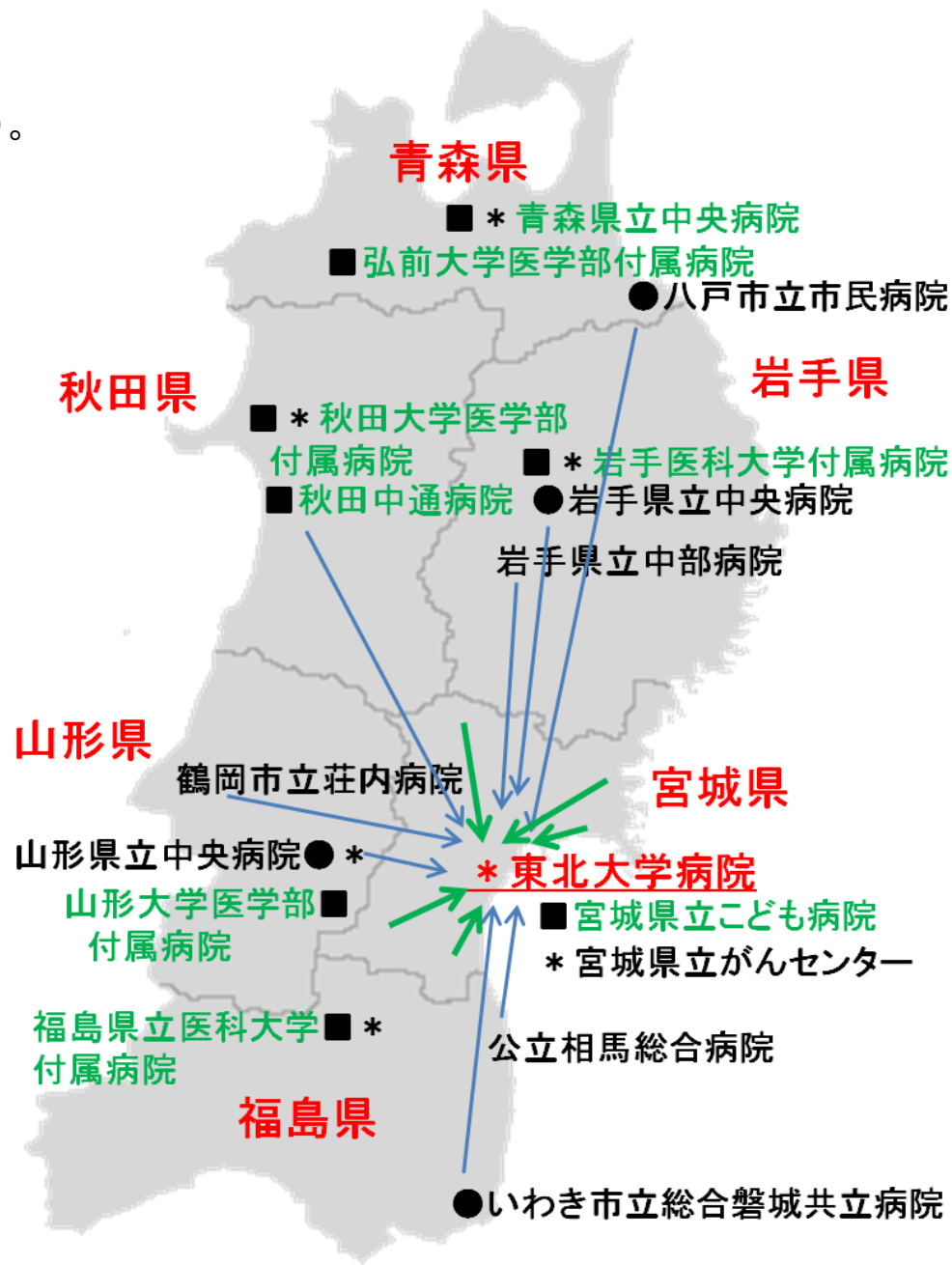


図 3 東北ブロックにおける小児がん診療病院

●地域ブロック内の拠点病院及び小児がん診療病院では十分に対応できない疾患及び病態への対応

(地域ブロック外の拠点病院及び小児がん診療病院との連携)

- ・十分に対応できない対象疾患はないが、御家族の居住地やご希望に沿って、小児がん診療連携病院と連携する。
- ・地域ブロックを超えて連携が必要な医療機関（金沢大学病院＝I-131MIBG療法、名古屋大学病院＝抗GD2抗体療法、大阪大学病院＝WT1ペプチドワクチン療法）へ必要に応じて連携を行い、東北地区では施行できない治療についても、患者に提供できるようにする。

●連携の具体的な方法

- ・東北地域小児がん医療提供体制協議会を最低年1回開催し、小児がん診療のあり方の検討と情報共有を行う。
- ・個々の症例に対して、小児がん拠点病院および小児がん診療病院間での連絡を密に行う。

●地域連携を進めるための取組

- ・以下の複数施設の小児がん医療従事者を集めた1期的な研究会、勉強会を開催する(表1)。

実施予定期間	対象者	人数	研修内容
年2回(4月、9月)	医師・看護師・臨床心理士・CLS・臨床検査技師	50	東北小児白血病研究会において、ミニレクチャーおよび特別講演による小児がん専門知識の習得と、小児がん症例検討を行う。
年1回(4月)	医師・看護師・臨床心理士・CLS・臨床検査技師	50	東北小児白血病セミナーにおいて、病理検討会や特別講演による小児がん専門知識の習得を行う。
年1回(3月)	医師	50	東北小児がん研究会において、特別講演による小児がん専門知識の向上と、小児がん症例検討を行う。
毎月1回	医師	180	宮城県立こども病院血液腫瘍科との合同カンファレンスにおいて、小児がん症例検討と情報共有および抄読会を行う。
毎週1回	医師・看護師・臨床心理士・院内学級教師・保育士	1,000	小児がん総合カンファレンスにおいて、多職種による入院中の全小児がん症例のトータルケアや復学に関する検討と情報共有を行う。

表1 東北ブロックおよび東北大学病院における定期的な小児がん研修の実施予定

- ・定期的な小児がん患者の紹介、逆紹介人数の把握は、東北大学病院医事課で行い、協議会にて検討審議し、改善すべき点について定期的に検討する。

●地域ブロック内での長期フォローアップの仕組み(特に、拠点病院以外で長期フォローアップする際の患者情報の共有等)

長期フォローアップ体制

・ 集学的な長期フォローアップ外来の実施

- 1) 長期フォローアップ外来が週 2 回設置されている。
- 2) 他職種間および他診療科との連携図を示す(図 4)。

具体的には、小児科内の内分泌および循環器専門医、多職種スタッフが連携し、また成人診療科(血液免疫科、内分泌内科、循環器内科など)と診療連携していく。

・ 全国組織への参加

- 1) JPLSG長期フォローアップ委員会
- 2) 厚生労働省 がん臨床研究事業

小児がんの罹患数把握および晩期合併症・二次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究(黒田班)

- 3) 経済産業省 長期FU事業(どこでもMY病院構想) モデル県

・ 東北ブロック内の医療機関との連携

東北大学病院で長期フォローアップが困難な場合には、

- 1) 小児がん診療連携病院との連携
 - 2) 遠隔医療システムの推進
- にて対応する。

・ 二次がんへの対応

成人例では東北大学病院がんセンターおよびがん診療連携拠点病院への紹介が可能である。

連携の具体的な方法とその検証

- ・ 個々の症例に対して、小児がん診療病院間での連絡を密に行う。
- ・ 東北地域小児がん医療提供体制協議会を最低年 1 回開催し、小児がん長期 FU のあり方の検討と情報共有を行う。

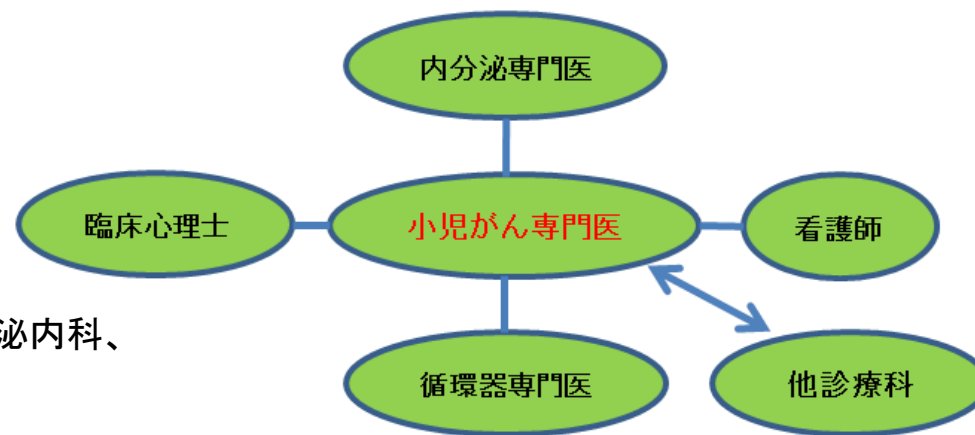


図 4 当院における長期フォローアップ体制

(イ) 人材育成

●小児がんに関する研修の実施予定

・東北大学小児科における小児科専門医の育成

1) 小児科研修プログラム in みやぎ

年間10名以上の小児科専門医を育成している。

2) 小児科医師養成寄付講座の設立

プログラム in みやぎの教育内容の向上を図っている。

研修医師数	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
小児科研修プログラム in みやぎ	11 名	16 名	12 名

・小児がん専門医の育成

1) 日本小児血液・がん学会専門医研修認定施設に認定されている。

当院で作成した小児血液・がん専門医研修プログラムに従って、専門医の育成を行う。

研修医師数	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
日本小児血液・がん学会専門医研修	2 名	2 名	2 名

2) 小児がん研修希望者を随時受け入れる。また、集学的治療の優れた施設に医師を派遣する。

脳腫瘍臨床研修中 1名

3) 基礎研究の機会提供を行う。

学内外基礎研究講座への派遣 5名

東北大学大学院小児病態学分野

宮城県立こども病院連携大学院講座小児血液腫瘍学分野との協力

・表 2 に現在の東北大学病院のがん診療専門スタッフ数を示す。

東北大学病院はがん診療とがん専門医育成に関わるスタッフが充実しているが、小児血液・がん指導医が不足している現状にある。現在、小児血液・がん学会認定施設として研修中の医師が毎年 2 名おり、今後 4 年間で小児血液・がん指導医は増える見込みである。

	人数
日本小児血液・がん学会 暫定指導医	1
日本小児血液・がん学会 認定外科医	1
日本小児外科学会 専門医	4
日本小児外科学会 指導医	1
日本小児科学会小児科 専門医	34
日本小児神経学会 小児神経専門医	3
日本病理学会 病理専門医	7
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	10
がん治療認定医機構 がん治療認定医	37
がん治療認定医機構 暫定教育医	18
日本医学放射線学会 治療専門医	6
日本看護協会 小児看護認定看護師	1
日本看護協会 がん化学療法認定看護師	4
日本看護協会 がん放射線療法認定看護師	4
日本看護協会 緩和ケア認定看護師	4
日本看護協会 がん性疼痛認定看護師	4
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	4
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1
日本臨床細胞学会 細胞検査士	7
日本医学放射線学会 医学物理士	2
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	4
日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	4

表 2 東北大学病院のがん診療専門スタッフ

●拠点病院間及び拠点病院と小児がん診療病院等との小児がん医療従事者の人材交流の実施予定

東北地区には東北がんプロフェッショナル養成推進プラン(図5)が機能しており、小児がん診療病院も含まれている。東北ブロック特有の問題点として、医療圏が広く、また小児がん専門医が少ない点が挙げられる。今後、当該プランを通じて、小児がん研修希望者の受入れ、地域連携病院の医師の教育、人材交流と研修・教育を継続する予定である。

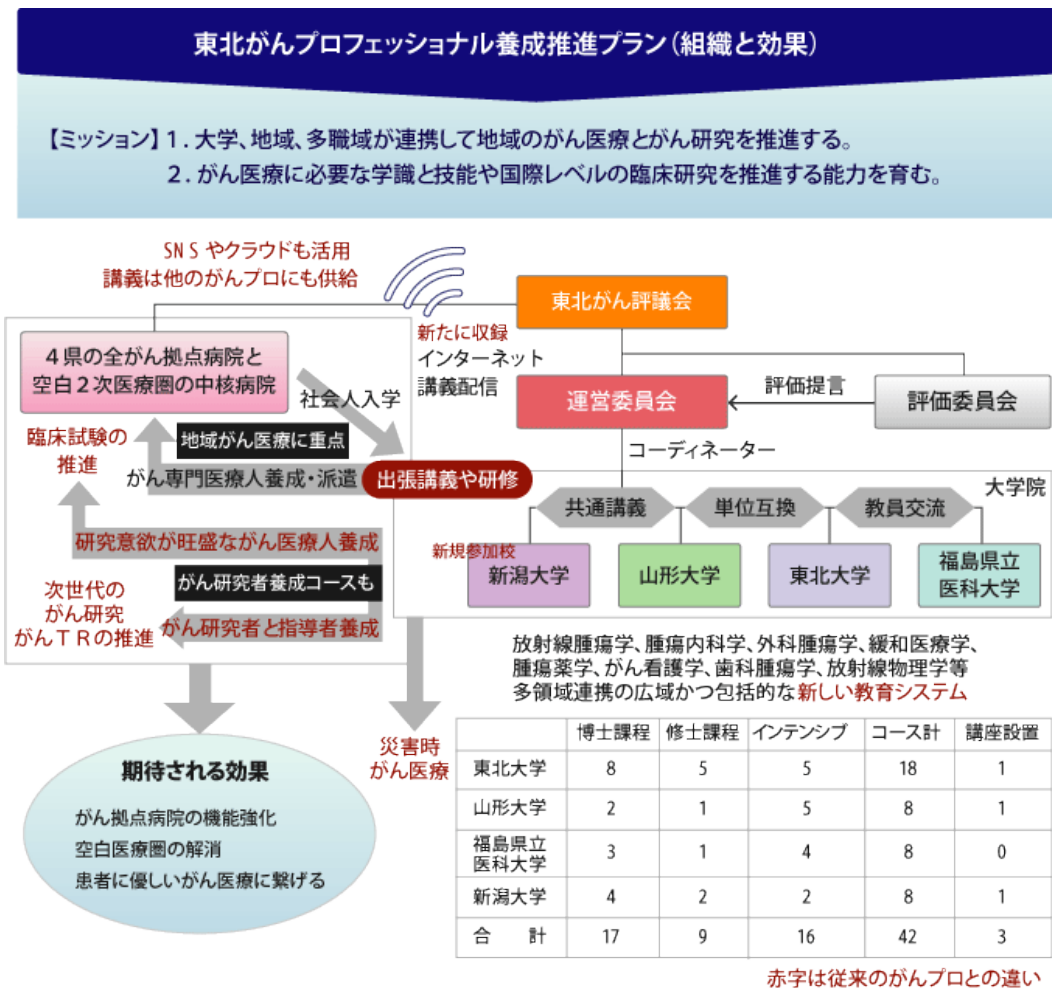


図5 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン